



新潟大学
旭町学術資料展示館
Niigata University
Asahimachi Museum

あさひまち

新潟大学旭町学術資料展示館ニュースレター 第19号 2021年12月
開館20周年記念特別号 ISSN 2185-7431

新潟大学旭町学術資料展示館 リニューアルオープンにあたって

新潟大学旭町学術資料展示館 館長 丹治 嘉彦

新潟大学旭町学術資料展示館(以下、展示館)が令和3(2021)年6月に装いも新たにリニューアルオープンするに至りました。展示館の建物は、昭和4(1929)年に新潟師範学校の創立50周年を記念し、卒業生の募金等によって同校敷地内に建築されました。昭和初期のモダニズム建築を基礎としつつ、スクラッチタイルを用いており、新潟市内に現存する昭和初期の鉄筋コンクリート造の建築物としては最古級のものと言われています。しかしながら約90年の歳月を経るに至り、外壁の劣化や損傷が進んだことによって、内部の壁面からの漏水が見受けられるようになるなど、展示館各所において老朽化が目立ちはじめました。これらの改善を目的として令和2(2020)年11月から改修工事が行われ、展示館は建築当時の外観を踏襲しながら現代の技術によって新たな姿を現しました。

もちろん外装だけが新しくなったわけではありません。今まで常設展にて展示していた学術資料を鑑賞者に見易くするための整理を行ったり、あるいは資料が設置されている台座を展示館内部の設えに合わせて等々の工夫を施しました。また、展示館の使命となっている大学が有している数多くの学術資料を掘り起こしそれらを披露することは、今まで以上に重要となります。その一環として今回「日本酒学展」を開催しました。この展覧会は新潟大学日本酒学センター・新潟県酒造組合との共催企画として日本酒に関する研究成果を披露し、また、新潟県酒造組合から提供いただいた日本酒のラベルや法被などを展示空間に設えダイナミックな空間を構成しました。このことは展示館が新たなスタートを切ったことの現れとなりました。

また、展示館の位置する新潟市中央区西大畑・旭町地区は歴史的建造物が数多く残され、風情漂う新潟市のまちづくりにとって重要な地域の一つに上げられています。展示館も設立当時よりこの地区の顔として機能してきました。例えば、昭和初期の文化施設に用いられたスクラッチタイルはその特徴を表したものでもあるのですが、それらを鑑賞しながらこの地区の日本庭園等を愛でる。そんな町歩きの一環に展示館が位置付けられれば、楽しみ方も倍増するのではないのでしょうか。それら一連の行動様式は日々の生活の暮らしや営みの中で、展示館の資料や作品を鑑賞することにより、見慣れた風景や当たり前とされた事柄に自分だけの気づきや発見を得ることに繋がります。それこそが何事にも左右されない文化のもつ力なのです。

新潟大学旭町学術資料展示館は新たなスタートを切りました。大学と社会を結びつける役割をその使命として、展示館にしか出来ない物語を皆で紡ぎ出していきます。



新潟大学旭町学術資料展示館は、国の登録有形文化財である旧新潟師範学校記念館の建物を活用してさまざまな展示・イベントを開催し、多くの皆様に来館いただけてきました。

しかし、建築から90年を経過して、老朽化が進んでいたことなどから、文化庁の令和2年度文化資源活用事業費補助金の助成を受けて、令和2(2020)年11月から令和3(2021)年3月まで、建築当初の設計図や古絵葉書なども参考にして改修工事を実施しました。窓の意匠など外観が昭和初期の雰囲気を取り戻す一方、展示室は照明がLED化され、壁紙やカーペットも一新されて明るい雰囲気にになりました。

工事完了後、展示資料や什器の移設などの準備作業を行い、オープン前日の6月18日にリニューアルセレモニーを開催しました。

セレモニーは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、関係者8名の少人数で実施しました。

丹治嘉彦旭町学術資料展示館長の開会挨拶に続き、牛木辰男学長が改修に携わった関係者の方々への謝辞と今後の展示館への期待について挨拶を述べた後、展示館前で、来賓の新潟市文化スポーツ部歴史文化課長・遠藤和典氏、牛木学長、澤村明学術情報基盤機構長、丹治館長によるテープカット式が行われました。テープカット終了後には、郷見前館長、橋本博文元館長、鈴木一史日本酒学センター長、加藤晃一学術情報部長が加わり、記念撮影を行いました。

セレモニーの後、参加者および報道陣向けの

内覧会が行われ、丹治館長による常設展示「自然・技術のあゆみ」・「人類史」の説明の後、鈴木日本酒学センター長からリニューアルオープン記念企画展「日本酒学展」についての説明があり、参加者からは活発な質問が寄せられていました。

また、この日の午後には展示館とともに歩んできたボランティア組織「あさひまち展示館友の会」会員の皆さんをお招きして内覧会を行いました。こちらも感染症対策のため、2つのグループに分けて丹治館長が館内をご案内し、会員の皆さんは熱心に見学されていました。

セレモニーの様子は地元テレビ局のニュースや新聞などに取り上げていただき、翌6月19日のリニューアルオープン初日から多くの方が足を運んでくださいました。

医学部の赤門・赤煉瓦塀とともに、本学の前身校の歴史を伝える建造物として、これからも皆様に親しんでいただければと思います。



新リーフレット



テープカット式



セレモニー参加者による記念写真

「日本酒学展」開催報告

教育学部／人文学部 田中 咲子

当館のリニューアルと開館20周年を記念する企画展として「日本酒学展」を開催した。新しい展示館に相応しい実験的企画をという意図も含んだ企画展であったので、本稿では展示概要とともにその試みについても綴ってみたい。

リニューアルに伴いロゴも刷新した旭町展示館の新たなスタートを伝える展示に相応しいテーマを、と展示館の丹治嘉彦館長とともに探る中で、日本酒というキーワードを思いついた。日本酒は全国に知れ渡った新潟の名産であり、本学では平成30(2018)年に日本酒学センターが発足、広範囲な研究が行われている。新しい展示館の性格として今後より強調していきたいのが、「新潟大学と市民をつなぐ」役割である(当館リーフレット)。それゆえ、本学の先端的な研究を市民に親しみやすく紹介することが、企画展を行う上で最優先すべきことだった。日本酒は私たちの生活に根差した身近な存在であり、且つ本学の特色の一つであるゆえ、新しい展示館を市民に知って頂くには格好のテーマであると考えた。

展覧会の企画は丹治館長を筆頭に筆者が加わり、本学日本酒学センターとも相談しながら展示内容を具体化していった。その中で展覧会名が「日本酒学展」に決まり、センターの所属教員に研究内容についてインタビューをしたりラボを見学させて頂いたりしながら、研究紹介方法を探った。他方、新潟の日本酒文化を視覚イメージで捉えた作品の展示も、本展のもう一つの重要な柱として位置づけた。現代アートの作家でもある丹治館長、並びに教育学部と工学部でデザインについて教鞭を執る橋本学准教授がそれぞれインスタレーション作品を制作し展示することになった。丹治館長は日本酒造りの伝統文化に着目し、県内酒造会社の法被や前掛けを壁面いっぱいに展示、橋本准教授は

酒瓶のラベルを用いた巨大なボトルデザインと精米歩合の違いを機械仕掛けで見せる作品を披露した。

展示はこれらのインスタレーション作品から始まり、日本酒の世界へ誘った後、日本酒学センター所属の若手教員の研究をパネルと関連資料で紹介する構成とした。今回は酒米研究の宮本託志氏、醸造健康学の西田郁久氏、日本文化史研究の畑有紀氏、以上3名の特任助教と骨代謝研究の柿原嘉人助教(歯学部と兼任)の研究を紹介させて頂いた。研究紹介ではとにかく市民目線を重視した。それゆえ、一般市民に容易に理解でき且つ興味深く感じてもらえるよう、丹治館長と筆者が各研究者と何度も打ち合わせしながら展示物を選定し、頂いた情報を再構成してパネル化、そして最終的に各教員から監修を受けるという形をとった。さらに、より見やすく美しいものにすべく、教育学部と工学部を担当する三村友子准教授(専門は鋳金をはじめとする立体造形及び写真表現)がパネルの最終デザインを担当した。

今回の企画展は、学会発表ではなく「市民につなぐ」ための展示として、企画者が積極的に展示内容に関与する形態をとった。相当な労力を要したのは事実だが、来館者の反応を見ても、大学と市民の交流の場としての展示館の役割を一定程度示すことができたと考えている。今後のための経験値を得られたことは大きい。最後になりましたが、本展の開催にあたりご協力賜りました学内外の皆様にご心より御礼申し上げます。



展示館の歴史

沿革

建物の歴史

展示館の建物は、明治7(1874)年に創設された本学の前身校・新潟師範学校の創立50周年を記念して建設されました。

大正15(1926)年	師範学校50周年記念式典が挙行政され、記念館建設を発表
昭和4(1929)年 6月	新潟師範学校記念館落成式 児童教育博物館等として利用
昭和21(1946)年	師範学校改組により、建物が財団法人に寄附される
昭和24(1949)年 5月	国立大学新潟大学が開学 新潟大学教育学部図書分館として利用
昭和41(1966)年	新潟大学医学部動物学教室として利用
昭和43(1968)年	教育学部で利用
平成6(1994)年	放送大学新潟教育センターとして利用



新潟師範学校記念館全景

展示館の開館

平成11(1999)年に新潟大学の50周年を記念し、各部署所蔵の貴重学術資料が一堂に会する公開展示会が開催されました。これらの展示品を常設・公開するために、放送大学から返還された建物を活用し、「旭町学術資料展示室」が開館しました。

平成13(2001)年 12月1日	新潟大学旭町学術資料展示室 (通称：あさひまち展示館)開館
平成15(2003)年 3月	ボランティア組織「あさひまち友の会」 発足
平成16(2004)年	新潟大学旭町学術資料展示館に 名称変更
平成17(2005)年	医学部の赤門・赤煉瓦塀とともに国の 登録有形文化財に認定される
平成23(2011)年 9月23日 ～10月7日	開館10周年記念特別展示「新潟大学所 蔵貴重学術資料公開展示会」を新潟県 民会館にて開催
令和2(2020)年11月 ～令和3(2021)年3月	改修工事
令和3(2021)年 6月19日	リニューアルオープン 「日本酒学展」開催

展示館20年のあゆみ

2001 開館

新潟学のすすめ 2001年12月～

「新潟の稀産動植物と地質」「歯科医療の近代史」「近代科学・技術の礎—旧制学校時代の実験器具から」「新潟の医学の先人たち—森田千庵、竹山屯、荻野久作の世界」「骨”小片コレクションは人類のルーツを探る新潟大学の至宝」「にいがたを中心とする人類史の再構成」をテーマに展示を開始しました。

また、企画展示「昭和20年代の洋画界の再出発—教育人間科学部所蔵資料を中心に」「新潟・佐渡—内水面交通の歴史をさぐる」を開催しました。

2004

新潟大学・佐渡交換展示会 佐渡考古資料と裂織り展 2004年2月7日～3月27日

越後と佐渡の歴史文化交流をめざした初の企画展です。

新潟会場には、佐渡から石器・土器など旧石器から江戸時代にいたる182点が展示されました。佐渡会場には、新潟大学所蔵の古人骨や考古資料など、約1世紀ぶりの里帰りを果たす資料もありました。



2007～

佐渡世界遺産運動への 取り組み

社会連携・地域貢献の一環として、展示館が2007年から取り組んだテーマです。

フォーラム「佐渡の魅力を語る」を皮切りに、佐渡金銀山に関わるフォーラムや企画展を多数開催し、佐渡世界遺産登録への問題に積極的に参加しました。2023年の世界遺産登録に期待しています。

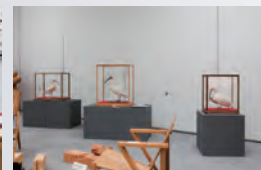


2011

開館10周年記念特別展示 新潟大学所蔵貴重学術資料公開展示会 2011年9月23日～10月7日

開館10周年を記念し、新潟県民会館を会場に開催された展示会は、展示館の常設展示資料に加え、普段は各部署に点在している学術資料や芸術作品など本学の「たからもの」を一堂に披露するものとなりました。

会期中には専門家による資料の解説会やフォーラムも開催され、10周年の節目となるとともに、さらなる発展に期待が寄せられました。

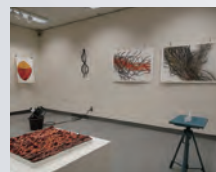


2013

Wave from Sweden —スウェーデン現代美術家展ART MINERS— 2013年7月27日～8月25日

近隣の文化施設と連携し、スウェーデンの現代美術家集団ART MINERSの作品を展示しました。来日したメンバーと学生、連携館スタッフが協同し創りあげた、スウェーデンの現代美術と伝統的日本家屋との異なる文化の融合が見どころとなった展示は新潟に新しい波をもたらしました。

会期中には各会場館をつなぐスタンプラリー等も行われ、西大畑・旭町地区の活性化にも寄与しました。



2015

砂丘展 2015年7月18日～10月11日

新潟市が主催する『水と土の芸術祭』市民プロジェクトとして開催されました。会場には絵画や写真、版画、古地図などが展示され、新潟砂丘の姿に多角的な視点で迫りました。

会期中には作家によるギャラリートークをはじめ、声楽コンサート、色砂を使ったワークショップも行われました。



2017

小片保回顧展 —その人と業績— 2017年10月4日～11月12日

医学部の小片保先生の生誕100周年を記念して開催され、医学部で管理されている小片コレクションと小片家からお借りした資料を展示しました。

また、会期中に行われた記念講演会では、小片先生ゆかりの講師の方々から、先生の研究や人柄、俳人としての一面がうかがえる貴重なお話を聞くことができました。



2021 リニューアルオープン

日本酒学展 2021年6月19日～8月22日

本学日本酒学センター・新潟県酒造組合・新潟県醸造試験場協力のもと、日本酒の魅力を伝えるべく、展示に工夫をこらしました。



2021年
12月1日
開館20周年



2009 発掘体験



2010 友の会バス見学会



2013 甘粕健先生の足跡



2013 中田瑞穂生誕120周年展



2014 災害の記憶



2015 鶴田逸亭先生遺作展



2017 竹あかり花あかり



2020 郷見彫刻小品展

展示館改修の意義

工学部 黒野 弘靖

J.ラスキンは「建築なしに過去の記憶を蘇らせることはできない」と述べた。この度の旭町学術資料展示館の改修は、新潟の街の記憶を継承するものとなった。展示館の運営者、管理者、設計者、施工者の丁寧な業務と連携による。

明治7(1874)年開設の新潟師範学校(現・教育学部)は、明治26(1893)年に砂丘の松林の中の練兵場跡地へ移った(現・旭町)。明治43(1910)年の校舎は、敷地東側の通りに煉瓦造の門柱を構え、正面に講堂、左右に本館棟と附属小学校棟が建ち並ぶものだった。3棟とも東向き、左右対称の西洋様式建築で、正門との前庭を松林としていた。昭和4(1929)年、前庭の正門南側に1階を児童教育博物室、2階を集会室とする記念館が建てられた。

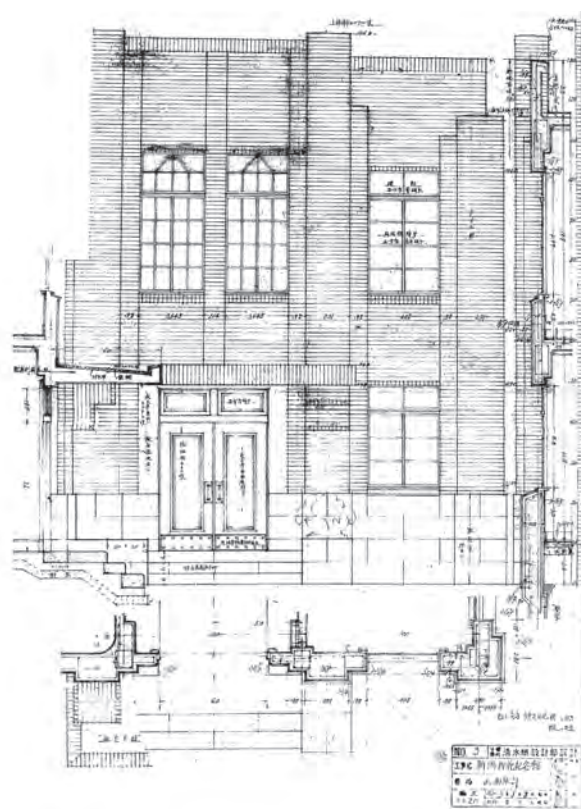
平成13(2001)年に本学の所管に還り、歴代館長と学内の教員から構成される運営委員会、事務担当の総務部研究協力課(～平成15(2003)年)および学術情報部学術情報サービス課(平成16(2004)年～)の運営により、学術成果を新潟の子どもと市民へ発信する役割を回復してきた。橋本博文2代館長は昭和4(1929)年に設計施工した清水建設株式会社へ設計図面の提供を依頼し、文化庁へ有形文化財としての登録を申請された(平成17(2005)年)。郷見3代館長は外壁の劣化を憂慮され、同庁の国指定文化財等磨き上げ事業への申請を進められた。

改修工事の実設計においては、当初の設計図面を基に復原設計を進め、亀裂や剥離のあるタイルを復原製作して替え、窓枠の形状を復し竣工写真の黒色とし、外壁の腰部分を図面記載と地中に残る破片より人造石洗い出しへ復原し、階段室内装の白漆喰を修復することとした。

また工事施工時には、腰壁人造石の骨材寸法とモルタル色は地中に残る破片を基に復原し、さらにタイル目地が縦方向のみタイル同系色のモルタルと判明したことから縦目地を復原することとした。これらの復原は防水性向上にも寄与している。

展示館は瀟洒な佇まいを取り戻した。柱型と袖壁は長短のリズムをなし、縦長の窓は黒い窓枠で縁取られ、タイル縦目地とともに引き締まった印象を与える。腰壁は砂丘とタイルの中

間色の人造石となり、地面と壁をつなぐ。正面に立つと、並びをなす黒松と建物の垂直線が調和している。屋内の階段を上がると、高窓から白漆喰の壁に反射する光に包まれる。新潟の近代化を象徴する遺産と実感できる。



建築当時の設計図面より(清水建設株式会社所蔵)



新潟大学旭町学術資料展示館開館20周年を祝して

あさひまち展示館友の会会長 広瀬 秀

このたびは、旭町学術資料展示館の開館20周年を迎えるとのことで、まことにおめでとうございます。友の会一同を代表してお祝いを述べさせていただきます。

「あさひまち展示館友の会」が発足いたしましたのは、開館後2年目の平成15(2003)年3月のことでした。当時の館長・橋本博文先生からのお声掛けで、館のボランティア組織としての前記友の会組織が誕生したわけでございます。

ほかの各種公立館にもボランティア組織はありますが、大抵は発足後しばらくして、いつの間にか消滅したり、組織の陣容が100%入れ替わったりするようですが、我々の友の会は会員構成が創立時からさして変化なく、この18年間というものと和気藹々とボランティア活動を継続してまいりました。

友の会会長は私で4代目となりますが、歴代の会長により友の会組織は極めて充実したものとなっており、会員数は41名を数えるまでとなっております。ただ現在のところ、昨今のコロナウィルス蔓延にともなう活動自粛で1年間休止中ではありますが、ウィルス禍が収束しまし

たら、活動を再開する運びとなっております。

友の会といたしましては、今後、従来の展示活動の継続はもとより、さらに斬新な企画を展示館側に望むものであります。欲を言えば地域住民を巻きこんでの資料収集などで、展示館所蔵資料の充実、また地域住民と子供たち参加型の企画展などが生まれたなら、より楽しい旭町学術資料展示館になるものと思われま

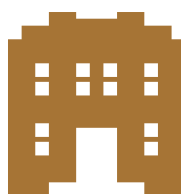
す。今後旭町学術資料展示館の更なる発展と展示館関係者諸氏の御多幸をお祈りするところであります。



シンボルマークが新しくなりました

リニューアルオープンに合わせて、シンボルマークを新たに作成しました。

建物の特徴的なシルエットを活かしたデザインです。看板や印刷物、スタンプやオリジナルグッズなどに使用して好評をいただいています。新しいシンボルマークをどうぞよろしくお願いいたします。



新潟大学
旭町学術資料展示館
Niigata University
Asahimachi Museum

デザイン：山賀 慶太 氏 (Pデザイン研究所)



令和2年度 入館者数および活動記録

● 入館者数 (2020年4月～2021年3月)

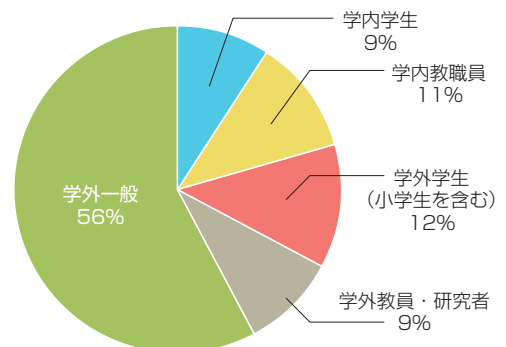
月	学 内		学 外			計
	学 生	教職員	学 生	教員研究者	一 般	
2020年4月	—	—	—	—	—	—
5月	—	—	—	—	—	—
6月	5	19	1	28	68	121
7月	15	43	5	46	171	280
8月	32	25	77	24	210	368
9月	31	16	30	11	59	147
10月	—	—	—	—	—	—
11月	—	—	—	—	—	—
12月	—	—	—	—	—	—
2021年1月	—	—	—	—	—	—
2月	—	—	—	—	—	—
3月	—	—	—	—	—	—
計	83	103	113	109	508	916

※開館日：水～日曜日の週5日間 4/1～5/31 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館
9/16～3/31 改修工事のため臨時休館

● 活動記録

期 間	タイトル	担 当
2020.6.3～6.21	郷兎彫刻小品展 —箱の中の小宇宙—	教育学部
2020.7.1～7.26	木々に集い、花にさえる 矢島群芳花鳥画展	教育学部
2020.8.1～9.6	ジオパークの微化石展	理 学 部

※すべて企画展示室で開催



● 講義・実習等での活用

日 付	講義・実習名	受講者数
通 年	博物館見学実習	50



新潟大学旭町学術資料展示館ニュースレター

あさひまち

第19号



■ ISSN 2185-7431

■ 発行年月日 2021年12月1日

■ 編集・発行 〒951-8122
新潟市中央区旭町通2番町746
新潟大学学術情報基盤機構旭町学術資料展示館

■ 印刷 富士印刷株式会社

新潟大学
旭町
学術資料
展示館
Niigata University
Asahimachi Museum

編集後記

昨年約9か月にわたる大規模な改修工事・移転作業による休館を経て、6月19日にリニューアルオープンし、このたび12月1日には開館20周年の節目を迎えることができました。コロナ禍は相変わらず続いています。外出して展示を見ることが当たり前だった日常の他愛ない喜びや楽しみを取り戻したい、とお話するお客様が多いと実感しています。久しぶりにお客様の声を聞かせていただき、気持ちが引き締まる思いがします。

リサイクル適性
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。